

危機管理担当者の呼びかけに50人参加 危機管理に関する勉強会がスタート

東京都や企業の危機管理担当者らの呼びかけで、「危機管理に関する勉強会」が毎月開催されることになった。その第1回が7月28日に都内で開催され、講師に東京都総合防災部情報統括担当課長の齋藤寅氏、ゲストに前東京都危機管理監（現：東京信用保証協会監事）の島田幸太郎氏を招いて、「東京都の危機管理」をテーマに行った。

まず、齋藤氏が東京都を取り巻くさまざまな脅威と都の危機管理体制を説明。東京都には全国の活火山（108個）の2割にあたる21個の活火山があることや、伊勢湾台風級の台風で冠水の可能性がある地域が23区総面積の約4割を占めること、30年以内にM7クラスの大地震が発生する確率が約70%と切迫していること、その他、大規模なテロや集中豪雨による都市型水害の危険性が高まっていることなどを説明。こうした危機に迅速に対応するため、都では危機管理監をトップに総合防災部職員約100人と、徒歩30分圏内にある災害対策住宅に約200人が待機し、計約300人が初動対処要員として備えていることなどを紹介した。

また、齋藤氏は危機発生時の判断基準について、「価値判断がぶれないようにするために重要なことは、最後は人間としての常識。その上で、限られた情報の範囲内で即断即決することや、常に優先順位（トリアージ）をつけて対応することが重要」。

さらに、こうした危機発生時に適切な判断ができるよう、「日ごろからアンテナを高く情報収集を行い、最悪の事態を想定したイメージトレーニングを行うことと、自らの健康管理と最良の状態と判断できるようにしておくことが大切である」と語った。

次に、島田氏と齋藤氏との対談に移り、「在職中どのような気持ちで危機対応にあたっていたか」の質問に対し、島田氏は「間違えたら辞める覚悟はあった。そして、都民の命を守るために、何をすべきかを常に考えていた」と、当時の心境を明かした。

また、一昨年（2011年）の8月、島田氏が危機管理監就任直後に起きた、都発注の下水道工事で集中豪雨による増水で作業員5人が死亡した事故について、「ゲリラ豪雨の対策は進んでいるが、常識を逸した降水量であった。まさかあのような狭い場所で、しかも下水道で事故が起きるとは想像が膨らまなかった。人が流され死亡したことは、慙愧の念で耐えられない想い」（島田氏）と振り返った。

勉強会には、企業の危機管理担当者や防災やBCPのコンサルタントら約50人が参加。終了後は別会場で懇親会を開催、参加者同士の意見交換等を行った。

東京都総合防災部
情報統括担当課長の齋藤寅氏



2回目の勉強会は9月8日、「新型インフルエンザ対応にみる危機管理の問題点」をテーマに、日本危機管理学会理事長の原田泉氏が、昨年発生した新型インフルエンザへの対応について、6点にわたる問題点（①過剰反応、②横並び体質、③誰が判断、④ワクチンの効用、⑤マニュアルの功罪、⑥費用対効果）を提起し、参加者との活発な討論を行った。



日本危機管理学会理事長を務める原田泉氏



勉強会には50人程が参加している

このうちの費用対効果について原田氏は、各地でワクチンが大量に余った問題について、『あの時はしようがなかった』と思うのではなく、対応によって生じるリスクやそのリスクを制御するために生じるコストまで分析する必要がある」と指摘し、対応措置の検証を重要とした。これに対し、参加者からは、「事後に費用をかけすぎたと結果論で批判する事は簡単」、「人命第一や意思決定した人に責任を問わない」、「リスクの確率、頻度、大きさをより正確に理解できるように、企業内で専門家を育成し、自社内で一定の判断ができるようなしくみを作りたい」、との意見が上っていた。

勉強会は毎月1回、18時30分から20時に開催。誰でも個人として参加することが可能で、資料代として2,000円が必要。また、勉強会終了後、会費制(参加自由、4,000円程度)の

懇親会も開かれる。

【3回目以降の勉強会の日程】

▼第3回勉強会【10月27日】(予定) =テーマ: グリラ豪雨と洪水の危機—水災害の知識—(仮題)、ゲスト: チーム水・日本「海拔ゼロメートル地帯防衛計画チーム」(江守商事株) 山内格氏、国際航業株 佐伯博人氏、日本上下水道設計 山下三男氏、江戸川区土木部長 土屋信行氏)

▼第4回勉強会【11月24日】(予定) =テーマ: 新宿駅西口高層ビルでの防災対策の取組み(仮題)、ゲスト: ㈱損保ジャパン・リスクマネジメント 児島正氏

▼第5回勉強会【12月15日】(予定) =テーマ: 「東京DMAT(災害医療派遣チーム)の活動(仮題)」、ゲスト: 都立広尾病院 副院長 佐々木勝氏

■ 勉強会への問い合わせ、申し込みは事務局

(sjuku1@gmail.com 幹事代表: 上田悦久氏) まで。

自販機が災害時の 飲料備蓄庫に



災害救援
ベンダー

非常用電源を搭載
停電時も飲料提供可能



お問い合わせ・資料請求は
ダイドードリンコ(株)
東京営業部/武田・松本まで

TEL 03-5730-2057

www.dydo.co.jp